

第7次舞鶴市総合計画に基づき、まちづくりの方向性や市の取り組み施策・事業をお伝えする「市政の今」。今回は京都府北部5市2町で取り組む連携都市圏の取り組みについてお伝えします。



SDGs未来都市

舞鶴高専  
建設システム工学科  
社会基盤メンテナンス  
教育センター長  
玉田 和也さん



インフラ整備も5市2町で

日ごろ通勤や買い物で使っている道路や上下水道などは生活に欠かせないインフラ（社会基盤）です。災害が起ってもインフラが丈夫であれば復旧・復興を迅速に進めることができますが、現在そのインフラの老朽化が進んでおり、維持管理が問題になっています。

政府はDX（※1）などの最新技術でこの問題を乗り切ろうと考えていますが、地方のインフラに焦点を当てた対策はなかなか見えてきません。DXやAIなどの最新技術はあくまでも手法で地方のインフラを守るためのカスタマイズが必要になってきますし、その手法が整っていれば大丈夫とはならず、実際に現場で整備をする必要があります。

そのためにも、地域に密着した自治体の技術職員の技術力と創造力、バイタリティーの向上が今まで以上に必要となってきます。従来、技術職員はOJT（※2）による教育・技術継承が主流でしたが、インフラ工事の減少によりOJTが困難になってきました。少なくなってきたインフラ工事の現場を5市2町で技術的に共有することで、各インフラに長けた技術者が市町の境を超えて活躍し、その技術を5市2町に教授・拡散することが必要です。

最新技術もそれを使いこなせる人とフィールドがあつてのもので、地方のインフラを守るためには人財（人こそ財産）育成を継続的に進めることが大切だと考えます。その人財育成のためには北部連携のような「仕組み」「時間」「コスト」が応分にかかることを自治体や住民の皆さんに理解してもらう必要があります。

災害でのインフラの遮断などマイナスの経済効果は事後に計算することはできますが、インフラが遮断されなかったことによるプラスの経済効果は今まで評価されてきませんでした。インフラが遮断されないことに対する人・物への投資の必要性の醸成と一つの解決策が「京都府北部5市2町の連携」であり、10年後、20年後に「あの時、北部連携を進めておいてよかったな」と言ってもらえるように頑張っていきたいと思います。

※1 DX…デジタル化などITの浸透によって新たな価値が創出され、人々の生活をあらゆる面でもより良い方向に変化させること。  
※2 OJT…職場での実践を通じて業務知識を身につける育成手法のこと。



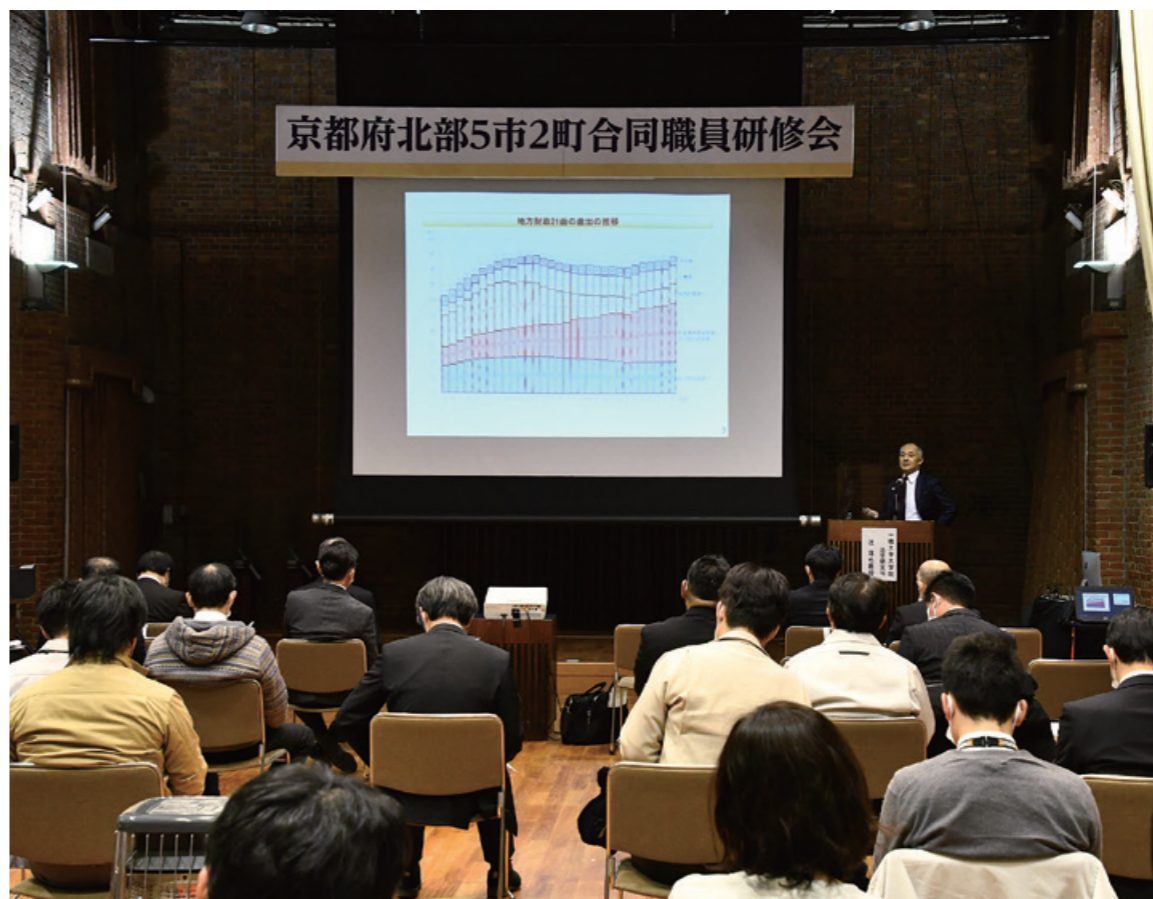
▲農商ビジネス商談会「フードコラボラ」



▲5市2町在住ならどの市町の図書館でも貸し出し可能



▲舞鶴・宮津・伊根・与謝野で共有する加圧式給水車



▲赤れんが2号棟で開催した5市2町の合同職員研修

京都府北部5市2町の広域連携

京都府北部5市2町（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）は、豊かな自然環境に恵まれ、各地域の固有の歴史・文化があり、お互い交流しながら良好な関係を築いてきました。

この5市2町では、それぞれの強みや個性を生かして連携・協力し、役割分担と機能強化を目指す「水平連携」を推進しています。相互に補完し、住民の生活に必要な機能を確保するため、平成27年4月に「京都府北部地域連携都市圏形成推進宣言」を行い、5市2町の首長で構成する「京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会（会長：舞鶴市長、事務局：舞鶴市）」を設立し、さまざまな連携事業を進めてきました。

これまでの取り組みと第2期ビジョン

これまで、合同企業説明会や農商ビジネス商談会を共同開催したほか、加圧式給水車の整備、図書館の相互利

水平連携が紡ぐ京都府北部の未来

京都府北部地域は、京阪神地域から高速道路や鉄道などを利用して2時間以内でアクセスできる立地条件にあります。自衛隊や保安庁、発電所が所在し、国防と海の安全を守る拠点や関西経済圏をバックアップするためのエネルギー拠点など国においても重要な地域です。また、日本海側拠点港「京都舞鶴港」、国内有数の内陸工業団地である長田野工業団地（福知山市）・綾部工業団地（綾部市）などが所在し、広域的な観点からも本圏域は非常に重要な役割を果たしています。そして、今後30年以内に高い確率で起こると言われる南海トラフ巨大地震などで、関西・中京経済圏に甚大な被害が生じた場合のリダンダンシー機能※の面でも重要な拠点地域です。

これからも5市2町それぞれの強みと個性を生かし「連携と集中」「分担と連携」を基本的な考え方として、圏域全体の活性化を目指す「水平連携」を推し進め、現在の人口規模を一定維持し、人口20万人の中核都市と同等の住民生活に必要な都市機能を備えた、持続可能な都市圏の形成に向けた取り組みを進めていきます。  
※リダンダンシー…冗長性、余剰を意味する英語で自然災害などによる障害発生時にあらかじめ交通ネットワークやライフライン施設の多重化、予備の手段が用意されているような性質を示すこと。

用、また消防・水道事業の広域化など、スケールメリットを生かした事業に取り組んできました。  
こうした中、令和3年度からは、令和7年度までの5年間を計画期間として、観光事業や産業などの「圏域全体における地域循環型の経済成長」や高度な医療サービス、広域公共交通網の構築、高等教育機関の環境整備などの「高次の都市機能の確保」、水道・消防の広域化など住民生活に必要な機能を確保する事業などの「生活関連機能の向上」を目指し、京都府北部で一つの都市圏を形成するための指針となる「第2期京都府北部地域連携都市圏ビジョン」を策定。さらには、総務省のモデル事業を活用し、圏域で不足する技術職員の確保やデジタル人材の育成について調査・研究を行うとともに、新たな事業として高校生みらい会議や副業・兼業人材マッチング企業活性化事業、オンライン企業説明会などに取り組んでいます。